

# 登米市歴史博物館

## 博物館だより NO.23



坂上田村麻呂と大武丸絵馬  
(長谷寺 所蔵)

### 目次

1. 企画展開催報告…… (1) 「恩田とき子人形展～物語に息づく女性美～」 P. 2  
(2) 「坂上田村麻呂伝説～東北に息づく田村ガタリ～」 P. 3
2. 今後開催予定企画展…… (1) 伊達政宗生誕 450 年記念「政宗と登米地方」 P. 4  
(2) 「(仮称) 仙北鐵道廃線から 50 年展」 P. 4
3. 講座報告…… (1) 春講座 P. 5～6  
(2) 夏講座 P. 7  
(3) 出前講座 P. 8
4. 各種活動報告…… P. 9～10
5. 学芸員の研究ノート…… 「坂上田村麻呂伝説と地名」 P. 11～13

# 1. 企画展開催報告

(1)「恩田とき子人形展～物語に息づく女性美～」(担当・文責：宇藤)

【開催期間：平成29年3月4日(土)～5月14日(日)】[全入館者数：1,946名]

当館では、登米市迫町出身の創作人形作家である故・恩田とき子氏のご逝去されてから七回忌を経たことを踏まえ、追悼の意味を込めて市民の方々に人形作品を公開した企画展を開催しました。

恩田とき子氏は大正8年に迫町佐沼の氏家家に生まれ、ご結婚を機に恩田姓を名乗りました。フランス人形を日本に広く知らしめた人形作家である川崎プッペ氏に師事し、有名百貨店の展覧会などに創作人形を発表し始めます。その後、才能が開花し、創作人形で数々の賞を受賞しました。また、チャリティーバザー開催の折には人形から得た収益のすべてを、恵まれない子供たちへ寄付し、国内外から何度も感謝状を贈られました。そして、当館とも交流を深められ、平成22年に91歳で亡くなるまで「大好きなふるさとのために」と、数多くの作品をご寄贈いただきました。

今回の企画展では恩田とき子氏の人形のなかでも特に印象的な、日本の民話や小説、戯曲などの様々な物語から着想を得た作品を展示しました。悲劇や悲恋が中心の儚くも美しい物語のヒロインたちを、あらすじと解説を交えながら紹介し、運命に翻弄される女性が持つ独特の情念や艶やかさ、魂の輝きを感じ取れるように構成しました。

会期中には、展示解説や創作人形のモチーフとなったヒロインが登場する物語を絵本の読み聞かせとして行い、多くの方に人形の魅力を知っていただきました。

なお、当館ではこうした貴重な作品の保存と公開を目指し、常設展示の一角に作品の展示コーナーを設け、年に3回～4回程度の入れ替えを行いながら、来館者の皆様に創作人形に親しんでいただいています。ぜひ一度、人形たちに会いに当館に足をお運びいただければ幸いです。



長崎(『蝶々婦人』より)



絵本の読み聞かせの様子

(2)「坂上田村麻呂伝説～東北に息づく田村ガタリ～」(担当・文責：高橋)

【開催期間：平成 29 年 7 月 1 日(土)～9 月 24 日(日)】[全入館者数：2,684 名]

7 月からは、岩手県南部から宮城県北部に残る坂上田村麻呂伝説の企画展を開催しました。本企画展を開催するきっかけは、本年が登米市南方町に所在する興福寺の 33 年に一度のご開帳の年であることでした。興福寺は、田村麻呂とゆかりの深い「奥州七観音」のひとつに数えられています。

坂上田村麻呂は、奈良時代中期～平安初期の武官で、蝦夷との 38 年戦争で活躍しました。胆沢城(岩手県奥州市)、志波城(同県盛岡市)を造営し、蝦夷の首長であったアテルイ、モレの助命嘆願を行うなどの逸話が残っています。東北地方には、坂上田村麻呂に関する伝説が数多く残り、登米市内には奥州七観音のうち興福寺・長谷寺(中田町)・華足寺(東和町)が置かれています。

今回の企画展では、田村麻呂が現代に至るまでにどのように語り継がれ変化していったのか、その変化に目をむけ展示を行いました。展示資料は、達谷西光寺(岩手県平泉町)や奥州七観音に残る資料を中心に考古遺物、近代の歴史教科書、民俗芸能の装束など様々な資料から田村麻呂伝説を紹介しました。

また、事前調査として江戸時代に仙台藩で編纂した地誌や各町史などの文献調査、地域の方に聞き取り調査を実施し、登米市内に残る田村麻呂伝説の採集を行いました。開期中にも情報提供をいただき、市内には少なくとも 62 個以上の伝説が残っていることが判明しました。

会期中には、2 回の展示解説と 7 月 16 日(日)に宮城学院女子大学の菊池勇夫教授による「仙台藩北部の田村麻呂伝説―地誌と語り物にみる―」と題した歴史講演会を開催し、江戸時代の仙台藩の地誌と奥浄瑠璃語りから田村麻呂伝説の地域での展開をご講演いただきました。同月 17 日(月・祝)には、「大嶽山興福寺ご開帳ツアー」と題して秘仏の参拝と興福寺周辺の歴史・民俗を学芸員とガイドボランティアと共に学ぶツアーを行いました。

今回の企画展調査により登米市内にも田村麻呂伝説が数多く残り、地域の人々にとって身近なものであったことを明らかにできました。しかし、他地域との比較検討など課題も多く見えてきました。引き続き調査を進めていきたいと思えます。



大嶽観音堂(興福寺)



歴史講演会の様子

## 2. 今後開催予定企画展

### (1) 伊達政宗生誕 450 年記念「政宗と登米地方」

【開催期間：平成 29 年 10 月 28 日（土）～平成 30 年 1 月 28 日（日）】

※前期：平成 29 年 10 月 28 日（土）～12 月 10 日（日）

※後期：平成 30 年 1 月 6 日（土）～1 月 28 日（日）

本年（2017）は、仙台藩初代藩主伊達政宗が永禄 10 年（1567）に誕生してから、450 年目にあたる記念の年となっており、仙台藩にゆかりがある地域では様々な企画・行事が行われています。

実は、政宗と登米地方は深い関わりがあります。政宗が領有する以前の登米地方は、有力な葛西氏や大崎氏が統治していました。しかし、天正 18 年（1590）に豊臣秀吉による「奥羽の置き」がなされると、木村吉清の支配が始まりました。ところが、その急進的な統治政策に不満を募らせた農民たちにより、葛西・大崎一揆が勃発します。政宗は天正 19 年（1591）にこれを鎮圧しました。これにより、政宗は戦後処理をするために慣れ親しんだ米沢の地を離れ、岩出山を中心とした領地の経営に乗り出すこととなりました。

こうして戦国の世を駆け抜け、初代藩主として泰平の世を生きた伊達政宗。そして、その伊達家の下で江戸時代に登米地方を治めた領主には、仙台藩一門の家格を持つ登米伊達家が挙げられます。そのほかには、佐沼亘理家、笠原家、高泉家などが家臣として治めていました。

今回の企画展では、①政宗が登米地方とどのように関わってきたのか ②宮城にいる私たちが「伊達政宗」をどのような人物として捉えてきたのか ③登米地方を治めていた政宗の家臣との関係はいかなるものだったのかを、現存する各種資料を通じて紹介します。

### (2) 「仙北鐵道登米線廃線から 50 年 鐵道とくらし 2－思い出の仙北鐵道－」

【開催期間：平成 30 年 3 月 3 日（土）～5 月 27 日（日）】

「仙北鐵道」と聞いて、懐かしさを覚える方も多いのではないのでしょうか？

あるいは、初めてその名を耳にする方もいるかもしれません。

かつて、この登米地域にも石炭で走る機関車が走っていたことがありました。

大正 10 年（1921）10 月に、仙北鐵道登米線が開通し、大正 8 年に敷設していた仙北鐵道築館線とともに地域の産物などを運搬することとなりました。それからというもの、仙北鐵道登米線は地域の馴染みの足としても親しまれていました。

しかし、戦後に自動車が普及し、交通網の整備が進むと鉄道を取り巻く状況が変化し始めます。こうして交通手段が鉄道から自動車へと移行していき、次第に仙北鐵道の利用者が減少を極め、経営を維持していくことが困難となりました。そして、とうとう昭和 43 年（1968）3 月 24 日、仙北鐵道は廃線となり、お別れ列車が走ってその歴史に幕を閉じました。

今回の企画展では、そんな思い出に残る仙北鐵道に関する資料群を展示します。老若男女、様々な世代で楽しめる内容にしていきますので、ぜひ足をお運びください。

### 3. 講座報告

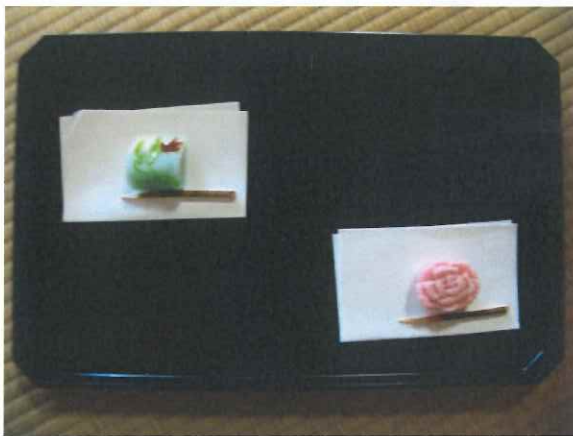
#### (1) 春講座 [全参加者数 : 51 名]

毎年ゴールデンウィークの時期に合わせて開催している春の講座。今年も歴史や文化を学べる体感型の講座を行いました。

##### ①春を感じる＊お茶会＊

《内容》

博物館ボランティア及び地域住民と協力して、旧亙理邸を活用した裏千家のお茶会を開催しました。



##### ②佐沼てくてく歩き

《内容》

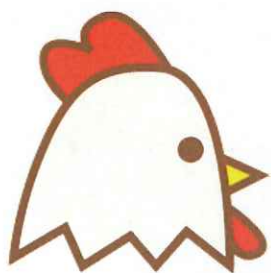
地域の歴史を体感して学ぶため、博物館→佐沼城本丸→西館→御陣場山→首壇→博物館のコースを学芸員の解説を聴きながら巡り歩きました。



### ③横山不動尊御開帳を巡る

《内容》

12年に一度、酉年だけに期間限定で御開帳される黄金の胎内秘仏を拝観し、不動尊及び周辺の歴史を学ぶツアーを開催しました。



### ④歴史講座「坂上田村麻呂伝説と登米地域～奥州七観音の世界～」

《内容》

登米市に関連した歴史について学芸員が研究成果を講演する第一弾として、企画展「坂上田村麻呂伝説」の予備知識となる講座を講義形式で行いました。



(2) 夏講座 [全参加者数 : 34 名]

夏休みの時期に合わせ、博物館ボランティアと協力しながら子供たちが興味を持ちそうな「かき氷」と「妖怪～鬼～」をテーマに自由研究や夏休みの思い出絵日記の材料となる講座を開催しました。ナイトミュージアムにすることによって、仕事帰りの家族と普段なかなか体験できない博物館における特別な学びの場を提供し、博物館活動をより広く知ってもらう機会となりました。

《講座名》

「家族で行こう！夏のナイトミュージアム～妖怪講座・鬼編～」

《内容》

昔のかき氷機を展示しながら、かき氷に関する歴史や豆知識を、クイズを交えながら紹介しました。かき氷について知識を高め、実際に一人ひとり氷を削り、手作りのかき氷を製作しておいしくいただきました。家族で協力し合い、自身のかき氷を分け合う姿が印象的でした。

かき氷で涼んだ後は、暗闇の中で地獄絵などとともに紹介する身も凍るような地域に残る鬼伝説の話。こちらも子供たちに人気の企画でした。自分の住む地域の鬼伝説を知ることによって鬼を身近に感じることができたのでしょう。

最後は、鬼伝説にも関係してくる企画展「坂上田村麻呂伝説」を全員で懐中電灯を片手に見学しました。展示されていた「鬼の歯」を発見する課題にも楽しんで参加していました。



大武丸（「坂上田村麻呂と大武丸絵馬」より）  
長谷寺所蔵 登米市中田町



鬼の歯  
達谷西光寺所蔵 岩手県平泉町

### (3) 出前講座

毎年、当館では市内の公民館や団体を対象に出前講座を受け付けています。すでに多くの施設から希望があり、学芸員により歴史や文化を学べる講座を開催しています。内容は、ニーズに合わせて見直し、毎年各種行事等に様々ご活用いただいています。

#### [本年度の講座ラインナップ]

講座名	内容	対象年齢	材料費	所要時間
街頭紙芝居	博物館に所蔵されている昔懐かしい紙芝居を上演します。	不問	なし	30～45分
歴史講座	登米市内（9町）の各地域の歴史・文化などのテーマに応じて当館学芸員が講演を行います。	不問	なし	1時間～1時間30分
史跡めぐり ※博物館周辺の史跡の案内ですので、博物館にご来館いただく必要があります。	博物館周辺の史跡について古地図などを使用しながら、当館学芸員と共に実際にめぐり歩きます。※歩きやすい服装と靴をご準備ください。	不問	なし	1時間～2時間
手作り和雑貨① ちりめんコサージュ	ちりめん素材の生地を使用してコサージュ型のバッジを制作します。	小学4年生以上	200円	1時間30分～2時間
手作り和雑貨② 着物型ミニぽち袋	日本の文化を学びながら和紙と水引を使用して、オリジナルのぽち袋を制作します。	小学3年生以上	200円	1時間～1時間30分



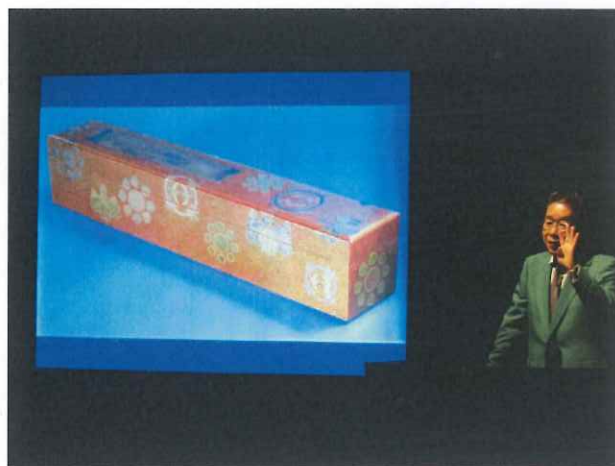


## 4. 各種活動報告

### (1) 友の会

地域の歴史や文化財に親しむことを通じて、会員の親睦を深めながら、博物館に関わる事業に参加・協力することを目的に活動しています。会員は本年度 37 名。年 1 回の定期総会と移動研修会、会報の発行を行い、刊行物への会員割引などが受けられます。

平成 29 年 9 月 23 日（土・祝）には、登米祝祭劇場小ホールにて主催講座「～伊達政宗生誕 450 年～仙台の至宝 伊達政宗 書にみる人と時代」を開催しました。事業部長の加藤秀一氏を講師に、伊達政宗の生涯について時代とともに変化する花押や字形を追いながら解説しました。当日は 80 名の参加があり、大盛況の講演会となりました。



### (2) 博物館ボランティア

講座やイベント、校外学習のサポートを中心として活動を行い、休日の旧亙理邸の解説ボランティアや研修会を通して身近な歴史や来館者との交流を感じながら、博物館事業を支えています。会員は本年度 22 名。年 1 回の移動研修会では、登米市に関わりが深い史跡や地域を訪ね、他館のボランティア活動について学ぶなどの見聞を広げました。



### (3) 古文書整理ボランティア

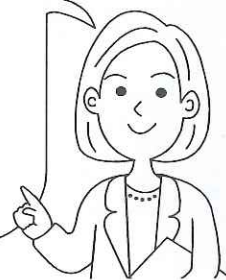
1ヶ月に数回の頻度で解読会を設け、当館に収蔵されている数々の古文書を解読し、整理するサポートを行っています。会員は本年度44名。定期的な学習会と年1回の移動研修会によって、近世文書の様式や変遷といった知識だけでなく、地方史や文化史に対する興味・関心をもって活動しています。



### (4) 各学校職場体験

当館では、教育活動の一環として職場体験を受け入れ、活用いただいています。実際の職場で職員とともに接客や資料整理などの業務を行うことで、将来の職業選択への意識を高めるきっかけとなっています。また、学校生徒のみならず、当館職員にとっても自身の仕事への姿勢を改めて見直す良い影響をもらっています。

今回は豊里小・中学校  
8学年（5名）と石越  
中学校2学年（7名）  
の生徒が頑張って取り  
組んでいました。



### (5) 博物館（学芸員）実務実習

「学芸員」という職業をご存知でしょうか。

学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示および調査研究その他これと関連する事業を行う「博物館法」に定められた博物館に置かれる専門的職員のことです。

その学芸員になるためには、博物館実務実習が必修となっています。そのため、当館では各大学と連携し、希望する学生に対して学芸員による実習の機会を提供しています。

貴重な年1回の実習指導期間。

今年は、宮城学院女子大学4年生（1名）が  
一生懸命学んでいました。



### 坂上田村麻呂伝説と地名

高橋 紘 (たかはし こう)

はじめに

企画展「坂上田村麻呂伝説～東北に息づく田村ガタリ～」では、登米市内に残る坂上田村麻呂伝説について文献調査や市民のみなさまに聞き取り調査を行いました。その結果、市内に62の田村麻呂伝説を確認できました<sup>(1)</sup>。その内訳は、南方町20、東和町12、迫町8、中田町7、米山町7、登米町4、石越町2、豊里町1、津山町1で市内全域に田村麻呂伝説が分布しています。

ここでは、それらの事例から田村麻呂伝説に由来する地名の一部をご紹介しますと思います。

#### 1 地名研究の注意点と調査資料について

前段として、地名研究で心掛けたことについて触れておきたいと思います。

- ① 地名研究は、「いつ、誰が、どこで」語り、記録したかが重要
- ② 地名は変化や後付けがあり、地名から史実を論じるには注意が必要
- ③ 史実との関係は、古文書などの資料と比較検討することが必要
- ④ 聞き取り調査は、聞き取ったありのままを記録する

以上のことは、伝説研究でも有効と考えています。ほかにも注意点はあるかと思いますが、このことを踏まえ、文献調査で使用した書籍類をご紹介しますと思います。

基本的な事例は、旧町の町史・刊行物類や各種団体(登米地方文化協会、寺社など)の刊行物で集積しています。江戸時代の史料では、『風土記御用書出』を使用しています<sup>(2)</sup>。聞き取り調査は、企画展準備期間中(平成29年1月～6月)に実施しています。

#### 2 各町域の事例

##### ① 南方町

南方町域は、市内で最も田村麻呂伝説が多い地域です。大武丸退治のとき、カラスの大群を目印に谷地を抜けて丘の上に旗を立て、後に続く人の目印にした「畑岡」、田村麻呂が宿営したとき、丘に12色の綺麗なつつじが咲きほこっていたので名づけた「十二山」、賊たちが逃げる際に砥石を落した、あるいは田村麻呂が砥石を落した「砥落<sup>とおとし</sup>」などです。南方町域の田村麻呂伝説は同町に位置する大嶽山の大武丸退治にまつわるもので、十二山などは、「栗原郡南方村端郷東郷風土記御用書出」にも確認できます。

##### ② 東和町

東和町域も田村麻呂伝説が多い地域です。田村麻呂が川を渡って米谷方面を攻めるとき、服属したものが人柱を作り橋となって渡河を助けたという「鬼橋<sup>おにばし</sup>」、田村麻呂に反抗した賊たちが住んでいた「悪戸<sup>あくど</sup>」、田村麻呂が蝦夷を追って現在の相川地区に入ったとき、先に逃れた蝦夷が隠れていた、あるいは降伏したといわれる「鬼伏<sup>おにぶし</sup>」と田村麻呂伝説と鬼が結びついた地名が確認できます<sup>(3)</sup>。

##### ③ 迫町

迫町域は、北方地区に田村麻呂伝説が多く分布していることが判明しました。「三方島<sup>さんぼうじま</sup>」、

は、田村麻呂が賊の再起防衛を祈願して飯土井山に三宝荒神を勧請し、元禄年間(1688～1704)にこの三宝荒神社を遷座したので、三宝が三方に変わって地名になったといわれています。「飯土井」は、田村麻呂が飯土井集落の高台から北(畑岡)の蝦夷に向かって矢を射たが、遠すぎて届かなかったことに由来するといわれています。

#### ④ 中田町

中田町域の「小島」・「灰塚」は、田村麻呂が兵を同町の長谷山方面に進めた折、賊の勢いが強く小島まで退却したが包囲され、苦戦した結果、錦旗を奪われる事を警戒し、焼却してその灰を覆って漸く多賀城まで引き上げたことに由来するといわれています。

#### ⑤ 石越町

田村麻呂に倒された悪路王の目が落ちた「鬼の目」という地名があります。

#### ⑥ 米山町・豊里町

米山町の「鐘引澤」は「遠田郡中津山村風土記御用書出」にみえ、これによると田村麻呂が大武丸退治の後、同町中津山地区と笠峯(涌谷町)・佐沼(南方町?)に観音堂を建立したとしています。米山町の畑崎・狐崎、豊里町の唐崎も大武丸退治に由来する地名です。

### 3 なぜ、田村麻呂伝説由来の地名が残るのか

実際に田村麻呂の征夷に由来する可能性も無くはありません。ただ、南方町・東和町・中田町は、大嶽観音堂(興福寺・南方町)、長谷観音堂(長谷寺・中田町)、鱒淵観音堂(華足寺・東和町)が位置していることが大きく影響していると考えています。これらの寺は、田村麻呂伝説とゆかりの深い「奥州七観音」に数えられています<sup>(4)</sup>。

その他の町域でも田村麻呂伝説を縁起に持つ寺社が確認できます。田村麻呂伝説を持つ寺社縁起などが地域社会に波及し、伝説が地名として定着したのではと考えています。また、田村麻呂伝説が後付けでその土地の歴史的な古さや他地域への優位性を主張するために利用された可能性もあるでしょう。

迫町北方地区の事例は、隣接する栗原市若柳畑岡地区との連続を考える必要があります。畑岡地区は、「栗原郡畑岡村風土記御用書出」に田村麻呂伝説が確認できる地域で、北方地区の「飯土井」などの由来では、畑岡地区との連続が意識されています。北方地区(旧北方村)は明治11年(1878)に登米郡に編入されるまで栗原郡に含まれていました。地名・伝説が市町村を超えて展開していく事例といえるでしょう。

#### おわりに

登米市内には、田村麻呂伝説由来の地名が数多く残っています。このことから田村麻呂の征夷について論じるのは難しいですが、少なくとも江戸時代には登米地域に田村麻呂伝説が存在し、人々にとって身近なものであったことは認めてよいでしょう。今後は、これらの事例を整理し、史跡や寺社の田村麻呂伝説を含めて登米市の田村麻呂伝説について考えてみたいと思います。

(1) 詳しくは 企画展図録『坂上田村麻呂伝説～東北に息づく田村ガタリ～』をご参照ください。図録では、59を収録しています。さらに企画展開催中には、市民のみなさまから迫町で2箇所、南方町で1箇所の情報提供を頂いています。このほかに、田村麻呂伝説と関係する可能性がある事例を発見していますが、由来がはっきりとしないため今回は収録していません。

(2) 『風土記御用書出』とは、仙台藩が安永年間(1772～1781)に領内の村々を把握するため

村名の由来や収穫高、名所旧跡など様々な情報を書き出させたものの総称です。今回は、『宮城県史』25(資料篇3)・26(資料篇4)に収録されているものを使用しています。

- (3) 東和町の事例については、小野寺正人氏の「流域の田村麻呂伝説」(『続・北上川の民俗文化』1986 株式会社ひたかみ)などもご参照ください。
- (4) その他の4箇所は、笹岳観音堂(笹峯寺・涌谷町)、牧山観音堂(零羊崎神社・石巻市)、小迫観音堂(勝大寺・栗原市金成)、富山観音堂(大仰寺・松島町)です。奥州七観音の最古の記録は、鎌倉時代に成立したとされる『長谷寺験記』ですが、具体的に観音堂の名前が記されるのは、「登米郡鱒淵村風土記御用書出」の馬頭観音堂の箇所に見える「田村將軍様奥州七ヶ所観音御建立由来之事」など江戸時代になってからです。

#### 参考資料(現地調査の一例)

※一矢当・二矢当・三矢当(東和町)

賊が田村麻呂の矢に射られたところとされています。二の矢当りに一説に田村麻呂を祭ったとされる二矢当神社(にのやあたり神社・にのやあて神社とも)があり、一の矢当り、三の矢当りには石祠が確認できました。



一矢当

(明治24年(1891)10月10日の銘があります)



二矢当神社



三矢当①

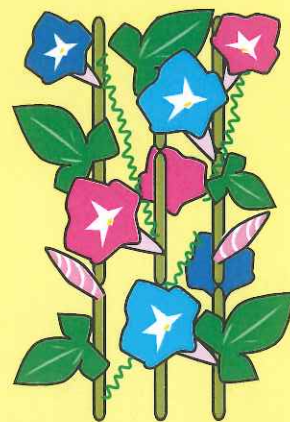
(昭和34(1959)年再建と銘があります)



三矢当②

(「三矢當神社」の銘も確認しました)

## 花いっぱい運動を実施しました！！



当館では今年も花いっぱい運動を行い、入り口前の花壇にマリーゴールド（黄色）64本、サルビア（赤色）72本、合計136本を植えました。

また、夏にぴったりの朝顔もたくさん咲き、青色や紫色など色とりどりの姿で、来館者を迎えてくれています。

### 編集後記

「博物館だより」はいかがでしたか。今回は春から夏までの時期の半年間の取り組みをご紹介します。また、この期間に当館のホームページがリニューアルオープンしましたので、ぜひ今後の企画展やイベント情報などのチェックにご活用ください。

日に日に肌寒くなる今日この頃ですが、私たちの博物館活動はまだまだ熱さを増して取り組んで参りますので、応援よろしく申し上げます。（宇藤）

登米市歴史博物館 博物館だより NO. 23

2017年10月1日発行

編集・発行 登米市歴史博物館

〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字内町 63-20

TEL 0220-21-5411 FAX 0220-21-5412

E-mail rekishi-haku@city.tome.miyagi.jp

URL <http://www.city.tome.miyagi.jp/rekihaku/>